



国立大学法人豊橋技術科学大学 Press Release

平成27年4月23日

渋谷達郎 氏（元本学建築・都市システム学 助教）が 平成27年度科学技術分野文部科学大臣表彰を受賞しました

文部科学大臣は、我が国の科学技術分野において各種表彰を行っております。

今回、元本学建築・都市システム学助教 渋谷達郎氏（アーキテクチュアランドスケープ一級建築士事務所）の「建築設計の実践に基づく持続可能な建築デザインに関する研究」が、高度な研究開発能力を有する若手研究者を対象とした“若手科学者賞”に選ばれました。若手科学者賞は、萌芽的な研究、独創的視点に立った研究等、高度な研究能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象としています。

【関連】平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者の決定について（文科省）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/27/04/1356509.htm

【業績】

建築や都市において、人に愛され、長く使い続けられる良質な住宅・町並みの形成は喫緊の課題です。

そこで、持続可能な建築を実現するための方策として、環境や構造を含めた要素技術を統合的に扱うデザイン手法に着目、人の知覚や感性、質的評価など、人間の側からアプローチすることで、地域・規模・用途ごとの特性、気候風土・景観などの周辺環境と建築との応答関係を分析しています。また、経年変化によって魅力が増すようなエイジング建築やワークショップ・セルフビルドといった参加型の建築手法に着目し、SNSを介した情報共有や合意形成のプロセスについて実践的な取り組みを行っています。

本研究成果は、建築設計の実践を通じて、持続可能な建築や都市を実現すると共に、広く社会に寄与すると期待されます。

【研究の具体的内容】

本研究では、持続可能な建築に関する様々な知見を活用し、人に愛され、長く使い続けられるような良質なストック形成を建築設計の実践を通じて実現し、広く社会に寄与することを目的としています。これまでに、以下に示す持続可能な建築デザインに関する3つのテーマおよび、相互に関連する建築設計の実践により取組んでおり、現在も継続中です。

テーマ1：サステナブル建築のデザイン手法に関する研究
(H19～H21)

テーマ2：人の感覚量と物理量を考慮した建築のエイジングに関する研究(H21～継続中)

テーマ3：SNSを用いた参加型手法による建築のサステナビリティ特性および実践に関する研究(H23～継続中)

実践1：白鷹の家

実践2：古民家再生・
黒谷プロジェクト

対象3：まちなか再生・
花園ベース
(商店街の空き店舗改修)

わが国の社会情勢は地球環境問題の深刻化に伴い、様々な対応が必要となっています。日本では、2020年までに1990年比で25%のCO₂削減を表明していますが、実現のためには家庭レベルでの個々人の取組みが必要かつ喫緊の課題です。そのためには、市民一人一人の意識を環境配慮型社会へと方向付け、ライフスタイルを環境志向へと転換していくことが重要です。持続可能性に関する問題は、環境負荷の低減や構造的耐久性の向上など、主にエンジニアリングの側からの研究が先行していますが、人の知覚や感性、質的評価など、人間の側からの研究はこれまでほとんど行われていません。そこで、サステナブル建築のデザイン手法に着目し、実際の建築事例を収集、分析しその特徴を明らかにしています（テーマ1）。また、サステナブル建築のうち、経年変化によって魅力が増すような建築や長期間にわたって魅力が持続するような建築を「エイジング建築」と定義し、建築の外観が人に及ぼす印象について分析し、物理的構成要素との関係性を明らかにしています（テーマ2）。

さらに、建築のサステナビリティ特性として、近年着目されているSNSを活用した参加型手法や合意形成方法による新しい持続可能な建築のあり方について、実際のワークショップや市民協働プロジェクトから考察しています（テーマ3）。

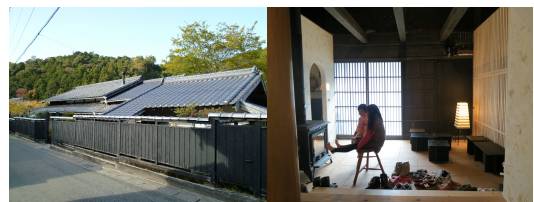
本研究では、理論と併せて臨床として建築設計の実践を行い、分析で得た知見を活用した持続可能な建築デザインを実際の実現しています（実践1～実践3）。「白鷹の家」（山形県白鷹町）は、多雪地域に建つ住宅です。冬の寒さや日照時間の短さといった環境条件に対し、十分な断熱性能を有した透光性素材を活用した『採光断熱壁』を開発。建物全面に採用することで、冬の間も積雪によらず自然採光を享受することができるような持続可能な建築デザインとしています（2010年度グッドデザイン賞、日本建築学会東北建築賞作品賞ほか多数受賞）。「古民家再生・黒谷プロジェクト」（新城市）は、築180年以上の古民家の再生プロジェクトです。SNSをきっかけに建物管理者、設計者、学生、地域住民が出会い、セルフビルドによる改修を協働しています。

地域の材料や技術を活かしたエイジング建築を実現しています（2013年度グッドデザイン賞、グッドデザイン・ベスト100受賞）。

「まちなか再生・花園ベース」（豊橋市）は参加型手法を活用して実践している商店街の空き店舗改修です。SNSを通じて情報共有や合意形成を行っています。（2014年度グッドデザイン賞受賞）



実践1：白鷹の家



実践2：古民家再生・黒谷プロジェクト



実践3：まちなか再生・花園ベース

5月18日（月）11：00～12：00に、本研究者である渋谷達郎氏への個別取材を受け付けます。ご希望の場合は下記広報担当までご連絡下さい。

【本件に関する連絡先】

広報担当：総務課広報係 高柳・梅藤 TEL:0532-44-6506